

診療所だより

フィリピンでも麻疹流行

マニラ日本人会付属診療所 菊地 宏久

日本でも麻疹流行のニュースが流れています。日本の厚生労働省によれば2019年1月1日から2019年3月27までの約3か月間に342名の麻疹患者が報告されています。

ではフィリピンではどのくらいの麻疹患者さんが報告されているのでしょうか？

500人？ 1000人？ 5000人？ 1万人？、それ以上？

フィリピン厚生省によれば2019年1月1日から3月21日までの間に2万3563人の麻疹患者が報告されています（内338人が死亡、死者の多くは乳幼児）。

なんと日本の約70倍の患者数が報告されています。

麻疹は空気感染、飛沫感染、接触感染など様々な感染経路を持つウイルス感染症で、感染力が極めて強く、麻疹に対する免疫がない人が感染すると90%以上が発症すると言われています。患者の咳やくしゃみを直接浴びた場合だけでなく、広い体育館のような場所であっても、その中に麻疹患者がいると、そこにいる多くの人 が麻疹ウイルスを吸い込んでしまうほどの強い感染力を持っていると言われています。

（感染力の強さを科学的に示す「基本再生産数」という概念（数）があります。全員が麻疹に対する免疫をもっていないと仮定して、1人の麻疹患者が何人の人に感染させてしまうかを表しています。麻疹の 基本再生産数は12～18と言われており、風疹が5～7、

おたふくかぜが4～7、SARS が4前後ですので、麻疹の感染力は、他の疾患に比べても非常に強いことがわかります。(参考;「学校における麻疹対策ガイドライン」、国立感染症研究所感染症情報センター、文部科学省、厚生労働省)

麻疹の特徴：

- ・潜伏期間は10日前後
- ・発熱・咳・鼻汁などの風邪のような症状(カタル期)の後に39度以上の高熱と発疹
- ・カタル期に最も感染力が強い(発疹出現以前から他者へ感染させる)
- ・麻疹を発症すると先進国でも1000人に1人の割合で死亡する
- ・合併症として肺炎、中耳炎、脳炎、心筋炎などを起こす。(さらに麻疹罹患後7年前後を経て発症する亜急性硬化性全脳炎SSPEなどの重篤な合併症もある)
- ・唯一の予防手段は“ワクチン接種”

フィリピンに在住している方はもちろん、日本から来比される皆さんも的確なワクチン接種を行い、適切な行動をとっていただくことが大切です。

麻疹のように空気感染や飛沫感染する感染症は患者さん一人のみを治療しても感染拡大は防げません。一国のみの政策によっても改善は困難です。感染症を封じ込めるためには世界中の国々が協力していくことが必要不可欠です。 2019年4月5日記